

【 From Kobe 2014年12月 】 2014年12月 師走の便り by Mutsu Nakanishi

**最近 都会のヤングママに果実の人気がなく、消費が落ち込んでいるという これも時代か??**



12年前の12月のfrom Kobe 四季折々 2012年12月の項を開いてみて、

映画「阿弥陀堂だより」を見た感想の項に阿弥陀堂だよりの著者 南木佳士氏の次の言葉を紹介していました。

「日帰り登山で下山するとき 急な登りであえいでいた余裕なき自己の姿を鮮明に思い出すが、笑う気になれない。

それに似た感情をあ頃の自分に対して抱く。 人生の山を上りきる直前の苦しさだったのかもしれぬ。

だから、今は肩の力を抜いて、ゆっくり景色を見ながら下ってゆく心地よさをなによりも大切にしたい。

それを支えるのはマンネリを好むからだの声に逆らわずに暮らすことなのだ と 50歳になってようやく気付いた。」

南木佳士氏 「阿弥陀堂だより」より

高齢者の言葉にも抵抗がなくなり、何とはなしに人忍しいこの頃ですが、「鉄」への思いや好奇心はまだまだある。

「まだ これからぞ」と前向いて風来坊と思っています。

来年は「末」の周り年 前向いて 頑張らねばと… でも 無理せず ゆっくりと今を

2014.12.10. from Kobe by Mutsu Nakanishi

**◀ 最近 都会のヤングママに果実の人気がなく、消費が落ち込んでいるという これも時代か?? ▶**

**過度の自動・情報化社会の急展開とその利根的な思考の万延は「人の生きるすべ」を見失ってしまう??**

**おおげさですが、今のこの風潮 これですってゆけるのか? と心配になる。**

2014. 12. 10. by Mutsu Nakanishi

最近 都会のヤングママにリンゴなどの果実が人気なく、消費が落ち込んでいるという。

理由は果実の皮を剥くのが面倒・苦手で、街へ行けば自由に飾り付けられてセットされた果物・フルーツがいくらでも食べられるからだとか聞く。リンゴやナシばかりでなく、みかんもそうだという。

そういえば、きれいにカットされ、小分けされたカット生野菜を必要分だけ買うのも人気だという。

調理された野菜に、手に取る魚はサシミだけだとも良く耳にする。

どれもこれも、誰かが調理してくれたものを意のままに必要分買うのがヤングママのスタイルだという。

一方「タクシーの扉が自動で開くのは日本だけだ」と日本を訪れた外人たち誰もが驚嘆すると聞く。

また、ほかにも最近の都会は便利になりすぎて 回転寿司の進歩・ロボット化には目が点だと。

こんな日本を外人たちは羨望の目で見ると共に首をかしげてみているという。

こんな事例は ほかにもいくらでもあり、日本の都会に氾濫している。

*意識しているしていないは別として、金さえだせば、すべて手に入る世の中の風潮*

*便利なものかもしれないが、自分の生き抜く技術・知恵が知らず知らずの内に退化していることに気が付いていない。*

*もし、ライフラインが壊れ、街に調理食品がストップすればどうするのだろうか? 例えば 今電気がストップすると… 安価な輸入品 過度のインフレから加工食品の価格が高騰し、その価格についてゆけなくなったらどうするのだろうか?。*

大げさに言えば 今 「東京・中央と地方」・世代間・雇用等々のギャップ・格差がいたるところに顔を出している。

地方と都会の感覚ギャップは評論家のむづかしい議論を待たずとも、過疎の地方ではすでに人の生活を脅かしはじめ、

漏れ聞くヤングママの感覚など地方では羨望的であっても高根の花である。

都会では一気に自分の身に逆転の現実がないとは言えぬ時代が身近にある。そのことにヤングママたちは無関心である。

日本人がみな 総感覚マヒにおちいつているのではないかともしも……。

- ◎ 都会ではすでに独りでは自立できず、ほかの人に頼らぬと生きてゆけぬ世界であり、  
そのネットワークが瓦解しかけているのに、そこに住む人たちはそのことに無関心でいる。  
過度な便利さは人の技術・感性をそぎ落とし、敷いては生きてゆく知恵をもなくしてしまう。  
今 日本では そんな感覚の分岐点に直面してはいないか???

よく日本人は思いやりの国といわれ、時としてそれが各々にとって重荷にもなって、それから逃れる願望も強い。  
でも、右か左だけでなく、その中間ゾーンも存在する日本の感覚 そんな「日本人の相手をおもんばかりの心の広がり、  
世界を救ってくれる??」との期待が世界で高まり、静かなブームにもなっている。  
そんな時に、おひぎ元の日本で、自分の仲間以外の顔が見えぬようになったら、もうおしまいだ。  
今もその実、日本人はアメリカナイズすることを豊かと錯覚してに血道を上げ、  
外人たちが日本に学び、求めていることを言葉として口にはしても、  
きれいさっぱりそぎ落とす方向へとまい進しようとしてはいないだろうか・・

東京や大阪など都会では 地方の痛みも日本の社会の歪も見えもしないし、理解もしない。  
中央・霞が関人間が世界をまた日本を動かしているとの高慢な考え方には 今歯止めが必要だ。  
原発の稼働問題・東日本復興の遅滞・安定雇用と格差のギャップ増大・医療に交通等々  
そんなギョップがいたるところで見えている。

今 国外からは 白黒の世界から、日本のカラー色豊かなスローライフ的な世界に注目のまなざしが注がれている。  
ヤングママたちよ 自分で調理しよう! 都会の便利の向こうにいる人たちにも 思いを寄せよう・・・・と。



本年最後の 偏屈じじいのやぶにらみのぶつぶつです。

この1年 またも同じことをぶつぶつ、新しい突破口もよう見つけず、巷に埋没です。 .

そんな掲載にお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

ひきつづきよろしく申し上げます。